



# 《一般質問》

## 小畠 裕司 議員

### 問 教育行政について伺う

**問** 本年度の予算編成に当たり、教育長の施政方針及び一般会計予算に対する学校教育、生涯学習及び社会教育について、教育行政方針について伺う。

**教育長** 教育の基本目標を「協働していきいきと学び続ける町民の育成」と位置づけ、大木町の一員として創造性を発揮し、自分自身にできる役割を積極的に果たそうとする自立した人づくりを一層推進する必要がある。

協働をキーワードとして、縦のつながりとは、年齢や時代を超えたつながりであり、幼児教育から9年間の義務教育まで、基礎基本を大切にするとともに、ビジョンの共有化や外部の有能な人材を活用するなど、教育の環境を整備することを通じて、生涯学習に至るまでの学びの場を創造していくことを考えている。

横のつながりとは、学校、図書館、公民館など教育機関のつながりや、町の自然や風土、地域人材・ボランティアなどの運動・スポーツ活動への参加機会の創出を目指し、軽スポーツやウォーキング等を中心とした運動効果が期待できるスポーツの場の提供を積極的に支援していく。

また、町の体育協会ではスポーツ指導者養成及び育成事業を考え、子供スポーツ教室を企画し、町内の大人が先生または講師となることを積極的に支援する。

さらに、総合型子供体験事業として、わんぱく探検隊と子供料理教室を一本化し、季節感を肌で感じられるような事業を企画検討している。運動公園の艇庫を使ったカヌー体験やハンギリ体験、さらにはアイススケートに挑戦などの体験型の年間事業を企画している。

これからは地区の自治、校区の自治、学校の地域化を目標とし、地域や学校の文化を高め、絆、つながりを強くするために、さまざまな活動を協働することで、すべての町民の方々の自立した人づくりに貢献することを目標とする。

地域環境等のつながりである。教育コミュニティの活性化を図り、地域を挙げて子供たちが安全で生き生きと活動できる地域協働型教育の実現を目指しており、地域の自治能力、校区の自治能力を高めていくことが必要。

学校教育においては、きめ細やかな指導ができるように、施設設備、人材の配置、人材育成、校長裁量の拡大、教材備品、学校行事及び教育内容の充実、大溝小学校の35人以下学級実現に向けた教室の増設や町費による講師の任用を適切に配置している。

さらに、大木中学校の数学の非常勤講師、学習支援サポーター、学習問題研究相談員、英語指導助手、ヤングアドバイザー、小中学校の特別教育支援員7名、家庭教育支援員6名、スクールカウンセラー、情報教育インストラクターなどの配置をしている。

次に、生涯教育、社会教育においては、こっぽーつと図書情報センターがその中核的な役割を担い、こっぽーつとガーデンが多数上がっているが、今回は大溝小学校改修工事について伺う。

**問** 数ある教育予算の中で、施設改修工事が多数上がっているが、今回は大溝小学校改修工事について伺う。

定期的な改修工事が必要なことはわかるが、児童生徒数が増えたので、安易に教室を増やすだけの理由か？工事内容を見てみると、駐車場整備や保護者、来校者のための車道整備の外構工事など含まれている。今回の大溝小学校改修工事におけるコンセプトや、今回の計画に至った経緯など、5年後、10年後を見据えた改修工事になっていると思うが、将来の大溝小学校像、教育像を伺う。

の完成により、こっぽーつとホール、学習室を備える子育てセンターが移動通路で結ばれ、生涯学習の拠点としての機能が高まることを期待している。

開館3年目となる図書情報センターでは、図書機能の立ち上げ期を終え、図書情報センター全体の充実発展期へと移行していく必要がある、これまでの運営方針や体制の見直しを図りながら、図書文化等拠点施設運営計画の目標値を念頭に置き、「こころ豊かな自分づくり」暮らしづくり、まちづくりの実現に向けて事業を進め、とりわけ地域の情報センターとしての機能を充実させていきたい。

町民の皆さんの学びや活動に役立つ情報を収集し、発信していけるよう、業務の標準化を図り、町民の皆様にも地域情報の収集と発信の一翼を担っていただく情報発信サポーター制度もあわせて進めていきたい。

子供読書については関係各位の協力により、今年度、子供に移したり、図工室を教室にしたりという経緯があり、理科室、視聴覚室を増設することによって、普通教室を確保するというのが基本的な考え方が、子供たちの普通教室を南側に一列にそろえて、子供たちの環境の改善、指導の効率化を考えている。

さらには、手狭なコンテナ室を広げて、子供たちが効率的に給食の準備ができるような取り組み、トイレを使いやすく、内部の改修または新設等しながら進めている。

読書活動推進計画を策定し、平成24年度は、計画の普及・啓発を中心に取り組むほか、学校図書室や子育てセンターとの連携協力体制を整えていきたい。



整備されたこっぽーつとガーデン

また、財団法人ひしのみ国際交流センターと連携した人材育成事業について、新たな可能性を追求し、公益法人改革に伴う一般財団法人への移行手続の中で、組織のあり方など幅広く検討していく。

健康スポーツでは、社会体育、生涯スポーツの重点施策として、事業の見直しによる連携協働を重視した事業展開

**問** 各小学校は災害時における避難場所となり得るかと思う。今の、町のほうでも避難経路など自主防災施策を模索されているかと思うが、避難の観点からでも施設改修に臨んでいただきたい。将来の大木町を担う子供たちのために、ぜひトップである町長と教育長が手を取り合って、今後の大木町の教育行政にご尽力いただきたい。

**教育長** 前向きに検討したい。



大溝小学校



大溝小学校

**教育長** 教育環境の改善というのをコンセプトとして考えて取り組んできている。児童の学習・生活環境の改善も行う、これまでに学校で抱えた課題等があれば解決し、教育効果が高まるような施設設備を考えている。

これまで図書室を視聴覚室

開をしていき昨年より事業を展開している総合型地域スポーツクラブが、特定非営利活動法人の認証を取得し、本年6月からは健康スポーツ係、町体育協会、アクアスポーツクラブの3者による共同事業計画を検討している。

健康及びスポーツの指導者養成・育成を主眼に置き、事業の一本化やスリム化を図りながら、町民のスポーツ活動を家庭や地域に根差していくために、健康・スポーツを充足させ、また地域コミュニティの活性化を図りながら、普及・啓発を行うとともに、地域でのスポーツ活動を積極的に支援していく。

就学前・学童期においては、子供のスポーツ活動の充実を目指し、学校、家庭、地域が連携した事業を展開する。成人期においては、成壮年及び女性のスポーツ参加機会の向上を目指し、参加しやすい健康・スポーツ事業の環境整備づくりをしなければならない。

中高齢者に対しては、介護予防を視野に入れた中高齢者